

(8) ししとう ※ししとう以外の「とうがらし類」については、次の(9)とうがらし類を参照

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 床土は排水のよい無病のものを使う。 2. 苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3. 換気を行い、床土を乾かす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	－	ク ロ ピ ク テ ー プ
		播 種 前 (種 子 粉 衣)	M4	オ ー ソ サ イ ド 水 和 剤 8 0
2 青枯病 <i>Ralstonia solanacearum</i>	1. 無病地を選ぶ。 2. ナス科作物の連作を避ける。 3. 圃場の排水を良好にする。 4. 発病株はできるだけ早く抜き取り、圃場外で処分する。 5. 栽培管理などの作業中に根を傷つけないように注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	－ － －・－	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ク ロ ピ ク テ ー プ (混) ソ イ リ ー ン
3 疫病 <i>Phytophthora capsici</i>	1. 高畝にして排水を図る。 2. ポリマルチ、敷わらなどを行い、雨のはね返りを防ぐ。 3. 品種間差異がある。 4. 前年、発病畑で使用した資材は消毒する。 5. 連作を避ける。 6. カボチャ、キュウリ、トマト、ナス等の疫病菌と同種なので、これらの作物との輪作は避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	－ － － － －	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤 ク ロ ピ ク テ ー プ ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
		発 生 初 期	4 21 11・4	リ ド ミ ル 粒 剤 2 ラ ン マ ン フ ロ ア ブ ル (混) ユ ニ フ ォ ー ム 粒 剤
4 萎凋病 <i>Fusarium oxysporum</i>	1. 無病地を選ぶ。 2. 発病株は除去する。 3. 作物残さは圃場外へ取り出し、深く穴を掘って埋める。 4. 未熟堆肥は病原菌の増殖を助長するので、完熟堆肥を利用する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	－ －	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤
5 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 過湿にならないように換気を良好にする。 2. 病葉、被害果を除去して埋める。 3. ポリマルチを行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発病前から予防的に散布する。	発 病 前 か ら	2 7	ロ プ ラ ー ル 水 和 剤 カ ン タ ス ド ラ イ フ ロ ア ブ ル
6 斑点病 <i>Cercospora capsici</i>	1. 排水を良好にする。 2. 換気、通風を良好にする。 3. 肥料切れをさせない。 4. 摘除した病葉や収穫後の植物体残さは放置せず、早めに処分する。	定 植 時	P2	オ リ ゼ メ ー ト 粒 剤
		発 病 前 か ら	3 24・M1 24・M1	ラ リ ー 水 和 剤 (混) カ ス ミ ン ボ ル ド ー (混) カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤
7 うどんこ病 <i>Leveillula taurica</i>	1. 密植を避け、風通し、日当りを良好にする。 2. 摘除した病葉及び収穫後の植物体残さは圃場に放置せず、早めに処分する。	発 病 前 か ら	3 3 3 11 24・M1 24・M1	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 ル ビ ゲ ン 水 和 剤 ラ リ ー 水 和 剤 ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル (混) カ ス ミ ン ボ ル ド ー (混) カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤
8 白絹病 <i>Sclerotium rolfsii</i>	1. 発病株を抜き取る。 2. 株堀取り後に湛水する。 3. 連作を避け、水田との輪作を行う。 4. 太陽熱消毒を行う。 5. できるだけ高うねにして、圃場の排水対策を行う。	発 病 初 期	14	リ ズ レ ッ ク ス 水 和 剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

ししとう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
9 アブラムシ類 (モザイク病 CMV AMV BBWV-2 PVY TAV PePMoV)	1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため、育苗床を防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. 周囲にシルバーテープをはる。 4. シルバーマルチをする。 5. 発病株は早めに処分する。 6. CMVはアブラムシ伝染する。	育 苗 期	4A 4A 4A	ベ ス ト ガ ー ド 粒 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
		育 苗 期 後 半	4A 9B	ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤 チ エ ス 粒 剤
		育 苗 期 後 半 ～ 定 植 当 日	28	ベ リ マ ー ク S C
		定 植 時	4A 4A 4A 4A 4A	ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤 ベ ス ト ガ ー ド 粒 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤 ア ク タ ラ 粒 剤 5
		発 生 初 期	3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 9B 9B	ア デ イ オ ン 乳 剤 ア ー デ ン ト 水 和 剤 ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 バ リ ア ー ド 顆 粒 水 和 剤 チ エ ス 水 和 剤 チ エ ス 顆 粒 水 和 剤
10 コナジラミ類	1. 苗で本圃に持ちこまない。 2. 圃場内及び周辺雑草を防除する。 3. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	育 苗 期	4A 4A 4A	ベ ス ト ガ ー ド 粒 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
		育 苗 期 後 半 ～ 定 植 当 日	28	ベ リ マ ー ク S C
		定 植 前	21A	サ ン マ イ ト フ ロ ア ブ ル
		発 生 初 期	4A 4A 4A 6	ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 コ ロ マ イ ト 乳 剤
11 ミカンキイロアザミウマ	1. 苗で本圃に持ちこまない。 2. 侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 3. シルバーマルチをする。 4. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5. 飛び込み軽減のため開口部を防虫ネット（1mm目合、ハウス以下）で被覆する。 6. 周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7. 被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	育 苗 期 後 半 ～ 定 植 当 日	28	ベ リ マ ー ク S C
		定 植 時	4A 4A	ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
		発 生 初 期	3A 4A 4A 5 13	ア ー デ ン ト 水 和 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

ししとう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
12 ミナミキイロアザミウマ	1. 苗で本圃に持ちこまない。 2. 侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 3. シルバーマルチをする。 4. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 6. 周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7. 被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
		育苗期後半または定植時	1A	オンコル粒剤5
		定植時	4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			34	ファインセーブフロアブル
			UN	プレオフロアブル
13 オオタバコガ	1. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部に防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本虫対象に防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。 2. 本虫を対象にアファーム乳剤で防除を実施しているところではハダニ類の発生が少ない。 3. プレオフロアブルはタバコガ類で登録がある。	若齢幼虫期	6	アファーム乳剤
			13 15 15 18 18 28 UN	コテツフロアブル アタブロン乳剤 カスケード乳剤 ファルコンフロアブル マトリックフロアブル プレバソソフロアブル5 プレオフロアブル
14 タバコガ	1. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部に防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本虫対象に防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。 2. プレオフロアブルはタバコガ類で登録がある。	若齢幼虫期	3A UN	アデイオン乳剤 プレオフロアブル
15 ハダニ類	1. 苗で本圃に持ち込まない。	発生初期	3A 3A 13 10A 25A	ロデイール乳剤 アーデント水和剤 コテツフロアブル ニッソラン水和剤 スターマイトフロアブル
16 センチュウ類	1. 水田に転換可能な畑では2～3年に1回の割合で水田に戻す。 2. 施設では夏期に1か月間の太陽熱利用による消毒を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	8B 8B	クロールピクリン クロルピクリン錠剤
17 ネキリムシ類	1. 植付け予定圃場では除草に努める。 2. 育苗床は、雑草の繁茂していないところで設ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	8B	クロールピクリン
		播種時または植付時	1B	ダイアジノン粒剤3

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する